

寅さん歩 その19

バーチャルウォークで

聖火を新国立競技場へ-5



平野 武宏

FWAホームページの「YR・四季の道」に八柳修之さんの「バーチャルウォーク（国内版）沖縄から新国立競技場まで東京オリンピック2020の聖火コース（仮想）1685kmを2020年7月までに歩いてみませんか」が掲載されました。

かつては平野寅次郎の名で映画の寅さんのように全国のウォーキング大会を歩き、世界最大のウォーキング大会 オランダ国際フォーデーズマーチ（4日間で120km）を完歩しましたが、2018年1月に坐骨神経痛を発症し、足の痛みで自由に歩けなくなりました。治療やリハビリを重ね、現在は7~8km程度の散歩まで可能に回復しましたが、歩けない時は例会にも参加出来ず、悶々としていました。こんな時の光明がこのバーチャルウォークの提案でした。リハビリの散歩の距離を累計しバーチャルコースのゴールに向かう、「ゴールするまでは健康でいなければ」との目標を持つ、前向きな気持ちにさせる取り組みです。

先の長いゴールまで歩けるかの不安もありますが、その時は**駕籠に乗って**（ウォーキングの隠語で交通機関を利用）聖火を新国立競技場へ届けようと気楽に考えました。歩く地域について学びながら思いを巡らすのも楽しいですよ。寅次郎は歩きながら、昔、ウォーキングで訪れて通過した県の思い出や、映画「男はつらいよ」で寅さんが通過した県でマドンナと、どんな恋をしていたのかをお話したいと思います。

2018年10月1日沖縄県辺戸岬をスタートした聖火は沖縄県那覇市から10月28日鹿児島県鹿児島市、11月20日宮崎県都城市に入り、宮崎市を経て12月31日宮崎県日向市と延岡市の間で新年を迎えました。

2019年1月24日現在、スタートから400km地点に到着しました。

次は大分県別府市に向かって歩きます。

〔大分県大分市～大分県別府市〕

401km～500km



写真上左は高崎山自然動物園への案内板、写真上右は別府温泉地獄めぐりです。

寅次郎の大分県訪問は2005年9月「第1回大分ビックアイ かぼす

マーチ」の参加です。大分県大会は前年までは湯布院と別府にて1日ずつ開催されていましたが、市町村合併の関係で新たに大分市が舞台となったそうです。スタート・ゴールのビックアイは3年前のサッカーワールドカップの会場になった総合スポーツ競技場です。

前日はツアーバスで「仏の里」、「国東半島」を廻りました。三浦梅園(約200年前の天文学者・儒学者)が天空に思いを馳せた地で、旬菜尽くしと郷土料理のだんご汁の昼食後、和尚の講話を聞き、仁王様や不動明王にお会いしました。九州最古の木造建築 国宝 富貴寺の阿弥陀如来や天皇家と縁があり菊紋章がある真木大堂、鬼が築いたという100段の石段を上って見た日本一雄大荘厳な熊野崖仏(まがいぶつ)を見ました。



第一日目は出発式後のスタート直後はビックアイのアンツーカーを歩き、オリンピックの入場行進の気分でした。

日本一きれいといわれる大野川沿いに別府湾まで歩き、亀塚古墳での昼食は名物鳥めしのおにぎり(鳥とごぼうだけで炊く)で元気回復。田圃の中を高速道路の高架が走る光景を遠くに見える山の上のビックアイを目指して歩きました。ゴールでの記念品は名産品の「かぼす」と「かぼすジュース」のサービスでした。



「かぼす」と「すだち」の区別もつかずに、ホテルの朝食の味噌汁に入れて感激。地元の人から「かぼす」は何に入れても美味しい」と言われた寅次郎でした。「かぼす」は大分特産で「すだち」は徳島特産です。

第二日目は大分市一望コースで別府湾やサルで有名な高崎山などの眺望は素晴らしかったです。

ゴール後の抽選は2日間とも9等賞のペットボトル1本が当たりました。なにも当たらない人もいたので、良しとした寅次郎です。



映画の寅さんで大分県が舞台になっているのは3作品あります。

1973年12月公開の第12作「男はつらいよ 私の寅さん」では

おいちゃん夫妻とさくら夫妻が九州旅行に出かける前日に柴又に帰った寅さん、ひとり留守番にすねますが、風呂を焚いて柴又で待つことにします。小学校時代の友人に出会い、友人の妹で画家の柳りつ子(岸恵子)に惹かれる寅さん。りつ子は陶芸家に片想いのすれちがい。やがて、りつ子はスペイン留学へ。おいちゃん夫妻とさくら夫妻が九州旅行で大分県の高崎山で群れから離れている「さる」を見て、寅さんを思い出し、早々に旅を切り上げて柴又に帰って来ます。寅さん思いの心やさしい「くるま屋」の人達です。寅さんはりつ子との恋に破れ、又、傷心の旅へ出て幕。



1982年12月公開の第30作「男はつらいよ 花も嵐も寅次郎」

では大分県湯ノ平温泉に母の納骨で来た動物園の飼育係の三郎

(沢田研二)と東京から観光旅行で来た蛍子(田中裕子)と同宿に。

蛍子に一目ぼれした三郎の恋の指南役になる寅さん。蛍子に三郎の思いを伝えると「二枚目過ぎる」と乗り気でない蛍子に寅さん、満更でもない気分。他人の恋は良くわかる寅さんは名キューピット役です。



キューピットは2本の矢を持ち、1本目は恋の成就に。2本目を放つと破局とのこと。寅さん2本目の矢を自分自身に打ち込んでしまったようです。観覧車で愛が実った二人に「もう俺は用なし。やはり二枚目はいい」と呟き旅へ。実生活でも7年後に、この二人は結婚、幸せに過ごしているとのこと。

1990年12月公開の第43作「男はつらいよ 寅次郎の休日」では

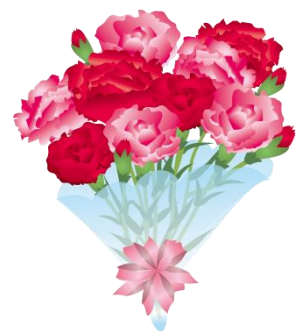
さくら夫妻の子 満男(一浪して八王子の大学に入学)の恋人の泉

(後藤久美子)が母 礼子(夏木まり)と別居中の父を探しに大分県

日田市に来ます。心配して柴又に来た礼子と寅さんも日田市へ。

新らたな家庭を持った父親の幸せそうな姿に母との復縁をあきらめる泉です。落ち込む泉に寅さん達も合流、一晚の疑似家族を演じます。

お酒を飲んで大荒れの礼子を人の弱み、特に女の弱みには付けこまないと我慢の寅さん、隣の部屋のふすまから見守ります。なだめ役は満男が寅さんの代役ですが、寅さんの方が一枚上手。その後、別れて旅に出た寅さん、名古屋の礼子の店に立ち寄り、花束の贈り物を持参し、置いて去ります。寅さんの満男への教育の考え方や恋愛論、礼子への接し方には感心しました。「幸せとはなにか」を考えさせる作品です。



別府市に到着したら、次の宇佐市から北九州市門司区までの
コースを紹介します。

途中経過は「寅さん歩」の中でお知らせします。

次回は 官公庁の食堂めぐり⑦ 中央区役所です。

平野 寅次郎 拝